

相撲の国際化による未来に関する研究

A study on the future by internationalization of sumo wrestling

1K06A207

指導教員 主査 石井昌幸先生

早田 健二

副査 寒川恒夫先生

【はじめに】

相撲は競技スポーツであると同時に日本の伝統芸能でもある。日本で国技と言えど聞かれると「相撲」と答える人は多いだろう。しかし、近年、大相撲の世界においては、日本人力士の活躍よりも外国人力士の活躍がめざましい。外国人力士は朝青龍、白鵬の両横綱をはじめ、大関、琴欧州や日馬富士と番付の上位陣を多く占め、幕内や相撲界においても勢力を強め、著しい活躍をしている。外国人が大相撲界に入門するようになり、相撲界も国際化の道のりを辿ってきている。それにとまって「横綱の品格」をめぐる議論に代表されるような問題が起こってきた。本研究では「相撲の国際化」を「外国人力士問題」という角度から考察し、相撲が今後どのように発展していくかを考えていきたい。

【第1章】

第1章では、国技の定義とは何なのかを考え、日本の国技と言われている「相撲」の歴史について述べる。国技とは、その国固有の文化や伝統に根ざしたスポーツ競技・武術を指すが、厳密な定義は存在しておらず、また国技であっても、国内で最も人気のあるスポーツとは必ずしも一致するものではない。相撲のはじまりは、腕力のある男たちが神前でその力を捧げる神事であった。そのために、神に対する敬意を示すための礼儀作法が特に重視されているのである。

【第2章】

第2章では、最近の相撲事情における外国人

力士のさまざまな問題や相撲における品格の問題について考えを述べる。前半では近年の相撲事情における外国人力士出現による歴史と問題、それに対するさまざまな否定意見・肯定意見を比較し外国人力士が大相撲界にもたらした影響を考えていきたい。後半では相撲における品格について朝青龍の品格問題を基に相撲道とは何か、横綱はなぜ品格を問われるのかについて考えを述べていきたいと思う。

【第3章】

第3章では日本のプロスポーツ界における外国人選手問題にスポットを当て、相撲の問題と比較し、考えを述べていきたい。日本には多くのプロスポーツチームやアマチュアスポーツチームが存在する。その中でも外国人選手の活躍によって常勝チームとして君臨するチームも多いはずである。相撲と同じようにスポーツが国際化したことで日本のスポーツ界にも多くの外国人選手が所属し活躍している。

【第4章】

第4章では今後の相撲の行方について考え、グローバル化という観点から先にグローバル化を果たした柔道の例を挙げ、相撲の未来の方向性について持論を述べていきたい。相撲は独自の世界があり、他のスポーツと実に閉鎖的に歴史を残してきたかが分かる。こうした独自の世界を維持していくには、競技性を高めていくことは望ましくない。営利を求めるのではなく、相撲の文化の継承を使命とするべきだ。その姿

勢を貫き、そのためにどうすべきかを考えることが大相撲の生き残る道が開けてくるだろう。

【終わりに】

現在の相撲界では外国人力士の活躍が著しいことは事実である。しかし、それによって相撲が大事としてきた「品格」というものの欠如が現れ始めた。しかし、相撲の国際化についてはもう後戻りはできないと思う。今後も外国人力士の入門者は増えるだろうし、相撲が日本人だけの世界になることはないだろう。相撲は今後どうなるかを考えてみると3つの道があるのではないか考えた。